しちのへ願(ねが)いかなう絵馬(えま)っぷ

「私の名前は、ねがい かなう 7歳なのー。
好きなことは、みんなの願いが叶うことなのー！
わたしのことを、かなうちゃんと呼んでほしーのー
よろしくなのー！エマ♪エマ♪」

「願いかなう絵馬の町」（七戸町絵馬）

七戸町の見町(みるまち)観音堂と小田子不動堂には、三百点に及ぶ江戸時代の小絵馬が奉納され、国の重要有形民俗文化財となっています。

馬はもともと神の乗り物であり、神霊は乗馬姿で人界に降臨すると考えられてたことから、古くは生きた馬を社寺に奉納する習慣がありました。絵馬はこれに代わるのもと考えられています。

絵馬には、畳二枚もある大きなものや名刺大の小絵馬、馬型をした板絵馬など様々なものがありますが、南部小絵馬は旧南部藩内に限って分布する独特なもので、上方や江戸の文化の影響を受けた絵心のある者によって描かれたものといわれています。